

平成24年度第3回八幡地域協議会会議録（HP版・概要）

日 時 平成24年9月5日（水）午後1時30分～午後3時45分

場 所 観音寺コミセン 第1・第2会議室

出席者（7名）

1号委員 堀直良 長谷川明子

2号委員 後藤純子 阿曾千一 池田善幸 池田久浩

3号委員 後藤征四郎

八幡総合支所：支所長兼市民福祉課長 土井一郎、地域振興課長 後藤修

建設産業課長 阿部幸秀

地域振興課 鳴瀬勉 池田裕子

欠席委員 加藤久美 佐藤訓 高橋せつ子 荒生道博

阿部喜至夫 小松幸雄 高橋知美

傍聴者： なし

議事日程

1 開 会

2 会長あいさつ

3 会議録署名委員の指名（池田久浩委員）

4 協 議

(1)八幡地域ビジョンのソフト事業（案）について

5 その他

6 閉 会

1 開 会

○長谷川明子副会長 本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。これより、第3回の地域協議会を開催いたします。都合により欠席の委員は、加藤久美委員、高橋せつ子委員、荒生道博委員、阿部喜至夫委員、小松幸雄委員の5名です。会議次第に従いまして、池田会長からの挨拶をお願いします。

2 会長あいさつ

○池田議長 皆様、大変今日のご苦労さまで。八幡地域の活性化のためには若者たちの活力がとても大切であり、どのように地域の課題解決のために活かして行けるのか等、皆様とご意見を重ねてより良い地域を目指していければと思います。前回の会議でソフト事業の素案が示されましたが、皆様から忌憚のない活発な意見をいただきながら効果のあるソフト事業ができるようにまとめていければと思いますのでよろしくお願いま

す。

3 会議録署名委員の指名

- 長谷川副会長 会議に入る前に、会議録署名委員の指名を行います。今回は“14番の池田久浩委員”にお願いしたいと思います。池田委員、よろしくお願いします。
- 池田久浩委員 わかりました。
- 長谷川副会長 それでは早速協議に入ります。会長が議長となり進めていただきます。

4 協議

- 池田議長 それでは、協議に移りますが、概ね、2時間ぐらいの協議の時間と考えておりますので、ご協力願います。今日の会議の進め方としましては、最初に委員の皆さまから、おひとりずつ、このソフト事業の素案を読んで感じた点や、ご意見、あるいはこの素案にとらわれなくても結構ですので、地域の課題解決、地域振興のために何か良い事業のアイデア等ございましたら、お出し願えればと思います。その前に(1)地域ビジョンのソフト事業について、事務局より前回の会議の概要について説明があるようですので、お願いします。
- 事務局(資料No. 1により「第2回地域協議会におけるソフト事業に関する各委員の意見要望より」について説明)
- 池田議長 それでは堀委員より順番にご意見等お願いします。
- 堀直良委員 できるものから中心となる人物を確保してやってもらうのがよろしいのではないのでしょうか。
- 池田議長 続いて後藤委員お願いします。
- 後藤純子委員 家族旅行村の有効活用を願っている。今年から試験的に実施した自然体験学習について状況がわかればお聞きしたい。
- 事務局 自然教室の今年の状況ですが、一條と八幡、港南、浜田の4校が参加した。地域の人達の協力によって子ども達も喜んで帰られた。今後は市全域の小学校が参加出来るような体制作りが大切になってくる。
- 池田久浩委員 今年はゼロからのスタートでハプニングもあったと聞いたが概ね順調に実施されて参加した子ども達も喜んでいた。しかし、今後、受け入れる学校が増えた場合、現在では圧倒的に現場スタッフが足りない状況であり、また連絡体制にも課題があると聞いている。それでも、子ども達には好評で、今年参加出来なかった子ども達から羨ましがられていると聞いている。
- 後藤純子委員 ちなみに、鳥海登山をしている学校はどの位か。
- 池田久浩委員 把握しているのは、一條小と八幡小、鳥海小で市街地の学校だとブルーラインから御浜のコースで登っているようだ。ほとんど学校の行事というよりも学年の親子レクという感じだ。
- 池田議長 続いて阿曾委員お願いします。
- 阿曾千一委員 先ほど説明されたソフト事業の重要性、必要性は感じている。その上でどのように展開していくかということですが、即効性を求めていくもの、あるいは工程表

を立てて計画的に取り組んでいくもの、それぞれあると思いますが、緊急性のある課題については重点的に事業が動ける形になってくれればと思っています。過疎債を受けられる期間が延長になったということで計画性を持ってやっていただきたい。特に、我々地元に住んでいる人にとって色々な課題が頭にこびり付いていて、どうしたら良いのか色々考えていても人材面、金銭面の壁が出てくる。以前、山形大学の学生に講義をする機会があって、「中山間地の農業はどうあるべきか」というテーマでレポートを出してもらったことがあったが、私が考えてもいないような柔軟性のある考えの提言が多かった。実際、この地域に住んでいない外部の人達の、地域の将来に関する意見を事業の計画づくりに取り入れてもらえたら良いなという感じがした。たとえば、学生さんたちが山形県の農業をなんとかしようと考えた場合、中学校や小学校に農業従事者が出前授業をして地域の農業について理解を深めてもらうといった面白いアイデアがあった。

○池田議長 後藤委員お願いします。

○後藤征四郎委員 ソフト事業案が色々あるが、重要性・緊急性のある事業をピックアップしてやっていただきたい。八幡の良い点をもっといっぱいあると思うので、皆さんでひねり出せたらと思う。～別紙資料の説明あり～

○池田議長 続いて池田委員お願いします。

○池田久浩委員 升田にあったホープの家「けんぞ」が大雪で壊れてしまった。ここには鳥海山荘や旅行村があるが、そういうのではなくて、何回もパッと来て山に登ったり、あちこちに寄ってパッと泊まれる手軽な施設というので「けんぞの家」を利用していた人達が多かったが、残念ながら使えなくなった。ある人は大阪の高槻市から年間5～6回も来られて、移動距離が800kmくらいあるそうだが、そういった大変な思いをしても「ここは鳥海山をはじめ、自然環境が良い素晴らしい価値のある場所」とのことだった。既存の施設は鳥海山荘などあるが、ホテルと違った手軽に泊まれるような施設を確保してほしいというのがある。空き家対策との関連もあるが、他の山に行くと誰でもいつでも泊まれるような家がポツンとあったりするの、そういう場所があればと思っている。それと、かつてこちらに住んでいて宮城県の大賀城市にいて震災に遭われた知人がいるが、その子供さんはまだ小さいが、大きくなったら高校はこちらの学校を受験して、また八幡に住みたいと言っている。八幡に住みたいと思っている人は実際にいるわけであり、そういう人を受け入れる体制がこちらで整備されていれば、八幡に住んでくれる人が増えると思われる。空き家の有効活用が出来るというのであれば、ぜひ対策を進めていただきたい。

○後藤純子委員 「けんぞの家」の補修計画はあるのか。あと「ふれあい館」は自由に宿泊できるようになったのか。

○池田久浩委員 「ふれあい館」はNPO法人の「いぶき」で現在管理している。

○後藤地域振興課長 「けんぞの家」を今後どうするのか、情報は入っていないが、あの状態のままにしておくことは出来ないと思われる。

○池田議長 「けんぞの家」については、発想自体は良かったが自然の凄さは升田に住んでみないとわからないところがある。ここ3年くらいは大雪が続いており、2mを超える。

「けんぞの家」でも屋根の茅の葺き替えだけで地元の人だけでやっていたから四方替えるだけでも冬の雪の影響で3年位かかっていた。また、今年の4月の爆弾低気圧の影響で「けんぞの家」の前に土蔵があったが、その屋根が飛ばされて「けんぞの家」に乗っかってしまった。土蔵自体も屋根が軟弱だった原因もある。「ふれあい館」についても旧升田保育園を国の補助で改修して高齢者の交流の場所としてNPO「いぶき」でやっているが、子ども達も夏休みの頃は結構利用はしている。

○後藤純子委員 升田の児童館の状況は。

○池田議長 児童館は児童館で果たす役割が違っている。学童保育的な役目をはたしている。

○長谷川副会長 情報発信事業の関係で日向地区で観光マップを作成するというのを聞いて、せっかくだから充実したマップを作っていたらいいと思われ。

○池田久浩委員 商工会の関係で作っていると聞いている。食べて、観て、1日遊べるようなマップを現在考えているようだ。しかし予算もあまりないということでモノクロの印刷になるようだ。

○阿曾千一委員 「ふれあい館」が利用できるということ、最近、酒田市のある福祉団体が初めて知って申し込みをしたという。どこに何があって、どう利用されているのかといった情報発信は大切なのではと思われる。それから、先日、鳥海山荘に県内各地から80数名が参加する会合があり、インタープリター協会の協力でトレッキングを行ったが、そういった案内を引き受けてくれる団体があるということは非常に心強かった。

○池田議長 玉簾の滝には、よく大型バスで観光客が来ているが、八幡地域にお金を落とすという様子はない。どうしたらこの地域でお金を使ってくれるか考えてしまう。あと地域活性化のために若い人とか外部の方々の意見を聞くということも大事かと思われる。ソフト事業案で「地域おこし協力隊運営事業」があるが、全国各地から興味のある人を募って事業を行えば、その若者がこの地域に張り付く可能性だってある。八幡の年配者の持っている力というか技術・知恵を今のうちに若者に継承させる音頭取りも期待出来る。「地域文化振興事業」についても、地元の獅子舞などは時間の問題で無くなっていく感じがする。教えたくても受け継ぐ若い人がいないとか、そのうち舞の仕方を覚えている人がいなくなるのではという状況だ。それから、福島県の奥会津でアケビの蕨などを使ってカゴ、バッグやオリジナルなアクセサリを作って売っている。地元の玉簾の滝の売店でもこの地域のお店の作品が売られているが、その作り方を知っている人も貴重な数になってきており、その技術を継承させる機会を作る音頭取りが居ればと思っている。

○阿曾千一委員 行政側にお尋ねしたいが、ソフト事業についてどのように組織作りなど展開させたいと考えているか。酒田市の福祉関係だと自立支援協議会というのが立ち上がって、第1ステージから第5ステージまであって、第5ステージに到達するまで、自分の現在のステージを認識してもらおうとのことだ。ソフト事業についてどのような窓口を想定しているのか。

○後藤地域振興課長 ソフト事業についての考え方ですが、八幡の4地区のうち一條、観音寺の平野部については深刻化していないが、山間地である大沢、日向地区については以前と全く様変わりしている。限界集落もあり人がいない、子どもがいない、高齢者世帯

が増えているという状況で、現在は一つの集落であるが将来は一つの地域として考えていかなければならないと思われる。ということで平成22年度からコミ振が発足したがこれからはこのコミ振が鍵となっていく。大沢コミ振、日向コミ振に地域おこし協力員ということで各1名ずつ張り付けてもらう。現在、各コミ振で事業をやっているが同じ事業をやるのだったら来てもらった意味がない。その協力員がその目を見た地域の課題解決のアイデアをコミ振の活動に反映させてもらえればと思っている。そして今後ボランティアワゴン車の運行や配食サービスなどを組み合わせて大沢・日向地区の課題解決に取り組んで行きたい。様々な団体から意見を聞き取りして、このようなソフト事業だったら少しでも地域づくりに貢献できるのかなということ提議させていただいた。

「地域おこし協力隊」については去年も財政課に要求したが「これは支所の考え方でしょう」と言われた。地域ビジョンのソフト事業については地域協議会で意見をまとめて決定して予算要求を出していただきたいと強く言われている。ここに12項目のソフト事業の素案があるが、皆様から様々な意見をいただいて要求していければと思われる。

○土井支所長 昔で言えば、行政が地域づくりと称して集落に入って仕掛けながら組織の仕組みを作っていた。現在は行政側で派遣出来る人がいなくなってきたのと受け入れる側の集落にマンパワーが無くなってきた。それではどうするかというと、「地域おこし」という人達から来てもらって、その人達が中心となって仕掛けてもらうということだが、過疎計画が終わってしまうとその先が見えなくなってしまう。それを考えると公益大の伊藤先生が言われているような地域課題の解決を目的としたコミュニティ産業、コミュニティ事業というものが生業とならないものかと思われる。たとえば、生ゴミを集めて堆肥を作って、それで野菜を作ってそれを農家レストランに売ったり、配食サービスの材料にしたりといったコミュニティビジネスが考えられる。それから、マンパワーがいなくなったという点を考えると、生涯、元気であってもらわないと地域が成り立たなくなってしまう。地域おこし協力隊の形とNPOといった地域の盛り上げで何かをやってもらう形、そしてコミュニティビジネスの形などあるが、そういったもので対応しないと地域の課題解決は難しいだろう。

○長谷川副会長 黒川の土日限定でやっている「どんでん」はとてもパワーを感じる。あれが発展して通年やれるようになったら素晴らしいことだと思う。

○土井支所長 行政のほうでノウハウを調べてきて、このような課題はこのように解決しましたといった情報は提供出来ると思われる。「どんでん」は土日限定というのが成功しているポイントであり、お金の面だけでなく、それを生きがいとして満足感を得ている方も居るのでは。

○阿曾千一委員 「どんでん」は当初、「直接支払い制度」といった助成を伴った協定があったが、目的を達成したということでお叱りを受けて打ち切られた。逆にそれが発奮材料になって弁当とか、おそば等に転換して現在に至っている。コミュニティ事業も最初どのように展開していくかで難しいところもあると思うが、除雪だとか雪下ろしだとか協力隊とかいってもボランティアとなると最初のうちは良いが限られた人になって負担になってくる。最低、動いた部分に対する対価、山形県の最低賃金ぐらいは出せる雇用が

生まれるような状況にしないと定着しないのではと思われる。定着することによって何らかのパワーが生まれてくるのではと期待する。

○土井支所長 ビジネスといった見方では成り立たないが、「生きがいと健康づくり」といった視点からすると、一般的に男性は平均寿命が79歳で健康年齢が70歳ということで70歳を超えると人の手を借りることが多くなるが、生きがいや目的意識があると健康年齢が高くなるという。雪下ろしにしても、ビジネスとまでは行かなくても福祉の助成金に上乘せするような仕組みを考えるなど、新しい発想を起こすとうまく廻る可能性があるかも知れない。

○後藤地域振興課長 日向コミセンに観光客が「食事するところはないですか」と時々たずねてくるという。コミセンでそばを出せるようにならないか。公民館で出していた時代から、酒田から客は来ていたので素地はある。大沢にしても国道沿いに店は何もない訳などでやり方によってはおもしろいのではと思っている。除雪にしてもコミセンが主体となって事業をやってもらいたいといった感じはしている。

○阿曾千一委員 私の地区の例を出すと最近始まったのに「集落内除雪協力隊」があり、燃料費プラスアルファをいただいている。除雪の隊長など分担を決めて排雪を行っているが、終わると直会ということで新たなコミュニケーションも生まれている。

○事務局 参考までに除雪機械の市の補助制度があり、5人以上の団体に申請した場合、該当する。

○阿曾千一委員 補助率は3分の1くらいだったか。

○事務局 2分の1で、上限は30万円です。

○阿部建設産業課長 除雪協力隊ということで市道等以外で、予算の枠の関係もあるが、㎡当たり20円以下ということだが該当するなら皆さんも申請していただければと思われる。

○池田議長 地域おこし協力隊の募集にしても都会からこちらに生活丸抱えの状態飛び込んでもらう訳なので、勤務条件をはっきり示さないと、なかなか地域に張り付いてくれないだろう。遊佐町の協力隊の状況はどうか。

○後藤地域振興課長 3年間の契約で月16万円程だ。3年の契約なので、契約が終わったらその人が八幡に定住してもらいたいという思いもある。先行している自治体を見ると定住したいという思いで来ている人達に役場の期限付きの臨時職員みたいな扱いをされているといった状況も聞いている。そういうことではなくて、3年間の中で定住できるような仕組みを考えられたらなと思っている。

○阿曾千一委員 3年後の就職も、バックアップして池田バラ園や農協関係等で面倒みてやる形にしないと、3年経って「はい、さようなら」ではいけないだろう。

○池田議長 3年間の中で地域づくりに絡めるような生活基盤となる仕事を見つけて定住してもらえれば最高だ。あと、国の事業で「農地水」の関係で農道だとか水路の草刈り依頼が生産組合から回覧板が回ってくる。今だったら出てくる人は大勢いるが、果たして10年後、何人の人が出てくるのか、車椅子で出てきて草刈りをするのではと冗談で言っている。現在30人出ているのが10人しかいなくなるのでは地域の環境は維持でき

ない。そうなるとお金を払ってでも外部の力にお願いすることになる。まさか、草刈の機械を担いで車椅子では来れない。あと、草刈り機械が使えない人もいるので、講習会を開いてもらうのも良いのでは。

話がそれてしまったが、八幡地域の将来のビジョンというものが少し皆様の頭に描けてきたのでは。明るい光が見えてきた感じがするので今後は一つ一つ実行していくことが肝心である。

○**事務局** 予算要求の締切が10月12日になっている。予算要求の事業の項目として緊急性を考慮して1ページから7ページ目までを想定している。地域おこし協力隊事業と一部だぶる事業もあるが調整してやっていきたい。空き家対策事業については市全体の対策会議があるので、その辺も踏まえて検討して行きたい。除雪対策等の事業は旧3町が共通した課題と思われるので担当者どうし調整しながらやって行きたい。

○**池田議長** 今、事務局のほうから説明がありましたが、地域協議会として説明された事業を予算要求することによろしいですか。

～異議なしの声～

5 その他

○**池田議長** 9月26日に八幡タウンセンター交流ホールで移動市役所を予定している。地域協議会の委員の皆様他に、各自治会長、コミ振の会長に案内している。それから10月に旧3町の地域協議会の合同研修会を予定している。各地区1箇所ずつ廻って最後に「ゆりんこ」で鳥海やわた観光の和田社長による研修会の予定になっている。

○**阿曾千一委員** ソフト事業の予算要求の合計額はいくら位か。

○**事務局** 地域おこし協力隊事業だけで1千万円位です。

○**土井支所長** 行政サービスというのは、過疎地域だけでなく公平でなければならないという点もひとつある。となると八幡だけで良いのかといったことになる。

○**後藤地域振興課長** 旧3町全体の共通課題もある訳なので、全体として考えて行く部分もある。

○**長谷川副会長** 一生懸命、要求しないと予算は獲得出来ないのでは八幡は八幡で要求していくべきではないですか。

○**土井支所長** 要求はします。あとはふくらみを持たせるか、どんな形にするかは、福祉事業だったら福祉課のほうで少し考えてもらう。

○**阿曾千一委員** 行政が得意なところで、要求は福祉課だが、過疎重点区域というエリアを設けて他の対応も・・・といったのも出てくるのでは。

○**土井支所長** 十分有り得る。

○**池田議長** 酒田一中学区だけで1人暮らし世帯が300世帯あると聞いている。しかし今回は過疎地域の自立促進計画で国から認められた特権ということで要求していくべきだ。

○**土井支所長** 八幡は過疎地域であり、その通りです。

○**池田議長** 今日は少数だったのですが、前向きな形で意見がまとまったようです。以上で

本日の地域協議会を終了させていただきます。

6 閉 会

○**長谷川副会長** これをもちまして第3回目の地域協議会を終わらせていただきます。みなさま、大変ご苦労さまでした。